

シンポジウム 1：学生時代から行う国際交流の意義

3. 山陽女子短期大学における学生の国際交流の 現状と今後の課題

小野寺 利 恵*

〔Key Words〕 臨床検査技師会、バーチャル留学、Global、National、Local

はじめに

学生時代から行う国際交流は、文化や伝統、生活習慣の異なる同世代の若者が交流を深めることで、広い視野を持ち、異文化を理解し尊重する態度や、異なる文化を持った人々と共に生きていく資質・能力を育成する上で、大変有意義なことである。このような力は将来の臨床検査の技術や質の向上にも繋がると考えられる。しかし残念なことに、すべての大学が独自の国際交流プログラムを設けているわけではなく、本学のように独自の国際交流プログラムを特別に設けていない大学でも、参加可能な国際交流について紹介する。

I. 本学を取りまく環境

本学は短期大学のため、3年間という短い期間で臨床検査技師の専門教育と幅広い教養を身につけさせなければならないため想像以上にハードである。アンケートの結果より、経済的に厳しい学生も増えてきており、アルバイトと勉強の両立をしつつ、サークルやボランティア活動にも積極的に参加している学生が増えてきている。広島では国際的な大会、イベントが比較的多く開催される

ため、それらに関するボランティア活動を通して、活動の中で必然的に英語の必要性を感じ、英語に対する意識の向上や国際交流に対する意識が変化してきている。海外研修に対しても年々興味のある学生が増えつつあるが、やはり、お金、時間、語学、治安に対するいくつもの高いハードルのため、現実には一部の学生しか海外研修の体験ができていない。

II. 国際交流の現状

本学の学生が参加してきた国際交流について紹介する。

① HIV/AIDS 対策海外人材教育研修(和歌山県臨床検査技師会(以下、和臨技)・タイ国臨床検査技師会)：

日本におけるエイズ教育ができる人材の育成を目指して、和臨技とタイ国臨床検査技師会(AMTT)の共同事業として、タイ国立チュラロンコーン大学内研修施設でタイの技師会会員と共に学び、交流を深めるプログラムである。また、エイズホスピス寺院を訪問し、エイズ患者のケアやボランティア活動についても学ぶことができる。費用は5泊6日で約10万円。

*山陽女子短期大学臨床検査学科 onodera@sanyo.ac.jp

② 大韓臨床病理士協会総合学術大会(日本臨床衛生検査技師会・大韓臨床病理士協会) :

日本臨床衛生検査技師会と大韓臨床病理士協会との相互交流の協定に基づくもので、2012年度第61回日本医学検査学会より毎年実施されている。抄録を応募し、選考された場合に日本医学検査学会と韓国の大韓臨床病理士協会総合学術大会での発表の機会が与えられる。3泊4日、発表者の個人負担なし。

③ エバコナ語学研修ホームステイ(エバコナ語学学校) :

いろいろなプログラムがある。例：3週間で約30万円。

④ オーストラリア医療福祉研修(日本医療福祉実務教育協会) :

オーストラリアの Toowoomba(トゥーンバ)という町にある南クィーンズランド州立大学にて、地元の病院や老人ホームなどを訪問して日本の医療・介護事情との違いを学ぶプログラムである。日本医療福祉実務教育協会加盟校の学生、関係者、卒業生が参加できる。費用は12日間で約38万円。

特に①②に関しては個人の金銭的負担が少ないこともあり、積極的に学生に働きかけチャレンジさせてきた。④は臨床検査学科の学生はこれまで参加していない。

III. 新たな今後の取り組み

本学のような弱小規模の短期大学で、特別な国際交流プログラムがない大学でも、国際交流に参加できていたのは、臨床検査技師会の大きなバックアップがあったからこそで、今後も地域の技師会とのパイプを強くしておくことが重要と考えられる。また、日本医療福祉実務教育協会のように

日本臨床検査学教育協議会独自の新たな海外研修プログラムが考案されていくことを強く望んでいる。

その他にも、新たな取り組みとしてバーチャル留学を考えている。バーチャル留学は無料ビデオ電話スカイプなどを用いたオンラインにおける海外留学の疑似体験で、これを利用すれば、資金問題、現地の安全対策などの問題がクリアできる。そしてこれまでよりも、さらに多くの学生が、海外留学の疑似体験をすることができる。本場の海外留学というハードルは高くても、まずはバーチャル留学を体験し、少しでも自信と度胸を高め、さらなるステップアップにつなげることができるのではないかと考えている。

IV. ま と め

これまで海外研修に参加した学生からは、人とのつながりが増えたことが一番良かったという声をよく聞く。海外で出会った方々、その時に一緒に研修に参加した方々との繋がりはもちろんのこと、その繋がった人達との関係が今でも継続して、学会などで出会った時や、同窓会などの機会でもまた色々なお話を聞き、自分の考えを広げていくことができる、何でもやってみようとチャレンジする気持ちが持てるようになったと感じているようだ。

国際交流を考えていく中で、Globalな繋がりができることはもちろんだが、国際交流を通して、国内の臨床検査技師学校の学生同士との繋がりと、そして地元の検査技師会との繋がりと、このGlobal、National、Local 3つの視点からアプローチすることで、さらに交流の輪が広がり、意義が深まるのではないかと考えている。